



4人目 内海貴史さん

-なにをしているひとですか？

利府町にある
「沢乙温泉 里山旬味 うちみ旅館」を
営んでいる九代目主人です。



利府駅から車で10分ほど、グランディ21近くにある「うちみ旅館」。宿周辺は、たくさんの沢に囲まれた自然豊かなところ。1200年の長い歴史を持つ沢乙温泉。来館者は、鉱泉の温泉と自然の恵みを活かした料理を楽しむことができます。沢乙温泉の湯守であり、うちみ旅館の経営者、料理長でもある内海貴史さん(43歳)に、お話を伺いました。

1200年の歴史を持つ 沢乙温泉の湯を守る

変化のきっかけは コンサートだった

旅館の創業は、江戸時代後期から始まり九代続いています。昭和の初め頃は、地域の人々の農作業の疲れを癒す湯治場として、平成バブル景気の頃は団体の宴会客でにぎわった時期もありました。「時代によって変化するニーズに適応しながら、今まで引き継がれてきたんです」と内海さんは言います。しかし、内海さんが経営を引き継いだ当初は、多様化するお客様の要望に上手く応えられず、悩んでいました。

2015年グランディ21で嵐のコンサートが行われた際、旅館を利用するお客様の存在がきっかけとなって、時代のニーズに合わせることが大事だと気付きました。コンサートを訪れ

るお客様は、夕食を取らない方が多く、若い人たちは使える費用が限られています。そんなニーズに合わせて生まれたのが価格を抑えた「一泊朝食付き」こだわりの和朝食膳プランでした。

朝から、宿のミネラルたっぷりの鉱泉水で炊いたごはんと地元で取れた季節の野菜をたっぷり使った献立。心づくしのもてなしは、「実家に帰った時の思いやりを感じ、心が温かくなる」と大好評。お客様の心に寄添ったおもてなしが伝わったのか、WEBでの口コミが広がり徐々に利用客が増え、リピーターも多くなりました。「宿の思いに応えるように、訪れたお客様自身がPRしてくれるようになり、人と人とのつながりが大切だと実感しました」。

利府町に「ある」もの

大学在学中に通った調理師学校を経て、京料理の流れを汲む日本料理の店で修業した内海さん。34歳のころ、実家であるうちみ旅館の料理長に就任。その後、40歳の時九代目主人を継ぎ、料理長と兼任してきました。地元の方々やスタッフ、友人、お客様に支えられ、試行錯誤しながら旅館経営を続けてきた内海さん。商いを長く続ける秘訣があるとすれば「日々一生懸命に仕事に向き合い、喜んでいただけるように、お客様の心に寄添うことではないでしょうか」と言います。

「利府町は観光スポットが少ないが、実は日本有数のビッグスタジアム



であるグランディ21があります。ぜひそれを活かし、そこで行われるイベントに、おもてなしの心で町民に関わるような状況が望ましい」と指摘し、さらに「利府町には、古代ロマンあふれる歴史と親切的な町民性がある。微力ではあるが、利府町の一員として訪れたお客様に心温まるおもてなしをすることが、利府町に貢献できることだと思っています」。

湯守として、料理人として

内海さんが、利府町民の方々に提案する「うちみ旅館」の利用方法のひとつは、特別な日のお祝いや記念日などに食の場として利用していたりすること。もうひとつは、客間のない住宅が増えるなかで、親戚や友人が訪れた時ゲストの宿泊先として利用をしていただくこと。利府町の皆さんに、のんびり温泉につかりながら、美味しい日本料理を堪能していただきたいと提案します。

湯守として将来やりたいことは、利府の歴史と古代ロマンあふれる沢乙温泉にまつわる話を後世に伝えていくこと。「さわおと」の由来は、1200年前の平安時代にさかのぼります。「宿の周辺の沢で芹摘みをしていた久門長者に仕える娘(亜久玉姫)が、多賀城政庁に赴任していた朝廷の高位の武官・坂上田村麻呂に見初められ、子(後の將軍・坂上田村麻呂公)を授かった。その娘を村では大切に敬い、この土地に娘の通称『沢乙女』の名を残し、『さわ

おと』の由来となりました」と内海さんが代々伝わる話を宿泊客にすると、とても喜んでもらえるそうです。訪れた町の歴史に触れることも旅の思い出なのでしょう。

もうひとつは、伝統的な日本料理を学んできたものとして、食文化(食の豊かさ・楽しさ)を伝える食育活動をしていくこと。「人が食材の命をいただいて大切な命を繋いでいる尊さ…だからこそ、食事の前の挨拶は『(命を)いただきます』なんです」と内海さん。「町の歴史や食文化を微力ながら伝えることで、町を誇りに思う方が増え、将来の町を担う子供たちがふるさとを慕う気持ちが育まれることを切に願います」と話してくださいました。

(取材・文 桃生尚典)

利府町で暮らす面白い人を毎月ひとりずつ紹介していきます

十符(とふ)とは？ ……昔、利府町の湿地帯には、良質な菅(スグ)草が自生し、「菅薦(スガコモ)」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅薦の編み目が10編あることから「十符の菅薦」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の湯」と呼ばれるようになり、十(と)が利(と)に、符が府に変わったと言われています。

from Tsumiki CHALLENGER

tsumikiを通して新しいことにチャレンジする人が増えています。今回は起業第一号の佐藤さんにその経緯を伺いました。

— CHALLENGER

レッド コメット インテリジェンス
「Red Comet intelligence」代表
佐藤聡明さん(45歳)



— tsumikiから起業第一号

佐藤聡明さんは2017年3月に企業、団体向けのコミュニケーション・チームビルディング研修を請け負う「Red Comet intelligence」を起業しました。佐藤さんが提供するセミナーは、「遊び」という実践を通してチームワーク、コミュニケーションを「学ぶ」ことが特徴。「人材育成に取り組むことが難しく、手が届きにくかった中小企業の方々にも受講してもらいたい」と、部署単位での受講も可能な、比較的リーズナブルな価格で開催できる料金設定にしています。「お互いに助け合って切磋琢磨し合える関係がチームワークに必要なと思う。そのうえで足りない部分は、チームメイトに補ってもらえる関係になれるよう手助けしたい」と言います。

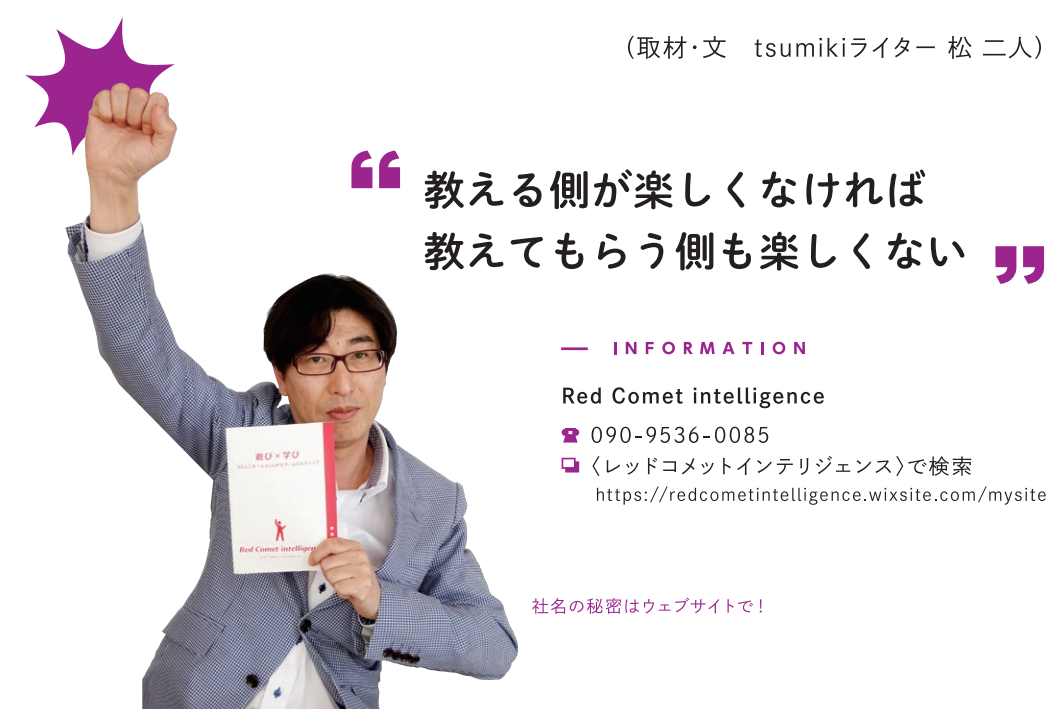
— 独立を考えたきっかけ

もともと人材育成に関わり、コミュニケーションとチームワークについて教えていた佐藤さんが、ある研修会を受けた時のこと「あなたにとって人生で大事な物はなんですか?」と、質問されて「楽しく暮らしていくことが大事だと自覚したんです」と言います。以前、自分の研修を受けてくれた部下が楽しみながら学んでくれたことを思い出し、「職場を楽しくする仕事をしたい」という思いが湧いてきました」と佐藤さんは話します。

— 一步一步、思いを伝える

会社を退職し独立の準備を行う中、利府町の広報紙でtsumikiの前身「Rifu-Co-Labo」の開催を知り、tsumikiという施設をつくるワークショップに携わる機会を得ました。2016年6月から半年間関わっていく中でいろいろな気づきがありました。「子どもの頃は誰もが遊びから何かを学ぶことはあったはず。ならばセミナーの主体を『遊び』に置き換えてみるのはどうだろうか?」と、「遊び」の中から「学ぶ」コミュニケーションセミナーを、佐藤さん自身が講師になって活動することに思い至りました。独立後はtsumikiの一角を借りてお試しセミナーを行ったり、利府町役場や町内の会社に営業にいったりと、まず「Red Comet intelligence」を知ってもらうことが先決です。利府から「遊び」を通して「学ぶ」機会を広げるための佐藤さんの新たな物語は、まだ始まったばかりです。

(取材・文 tsumikiライター 松 二人)



“ 教える側が楽しくなければ
教えてもらう側も楽しくない ”

— INFORMATION

Red Comet intelligence
☎ 090-9536-0085
📍 <レッドコメットインテリジェンス>で検索
https://redcometintelligence.wixsite.com/mysite

社名の秘密はウェブサイトで！

tsumiki INFORMATION

2017.6

「つみきラジオ」配信スタート！

5月から、youtubeにてラジオ番組「radionista in tsumiki」(ラジオニスタ イン ツミキ)がスタートしました。tsumikiスタッフの佐藤陽友がパーソナリティーを務め、利府町の魅力やイベント情報の発信、利府町で活動している人との対談などを行っています。「利府町で活動しているあなた!お話を伺ってもよろしいですか!」利府町の面白い人の情報をお待ちしています！



視聴方法 Youtube >>> 「tsumiki 利府」検索 >>> radionista in tsumiki

大好評！「こ・あきない市」

tsumikiでは、定期的にチャレンジマーケット「こ・あきない市」を開催します。「こ・あきない」には、小さな商いをみんなでやる(Co)という意味が込められています。去る、6月17日(土)には(夏の陣)を開催し、利府町内外から15ブースが出店。たくさんの方々にございました。今年度の開催予定は、次のとおりです。詳しくは、「広報りふ」やtsumikiホームページなどお知らせしますので、楽しみに。

次回開催 (秋の陣) 2017年10月15日(日)

「こ・あきない塾」この夏から開講予定！

「好きなことを仕事にしたい」「いつか自分のお店もちたい」。そんな人たちのために「こ・あきない塾」を開催します。ちいさいビジネス、小商いを実践させるため実践者の話を聞いたり、現場を訪問したりしながら、具体的に実現可能な方法を見つけていく連続セミナーです。詳しい内容は、tsumikiホームページ(rifu-tsumiki.jp)などお知らせします。

「tsumiki 交流会」を定期的に開催します。

tsumikiは、利用者が思いやアイデアを実現する場です。新たなビジネスやプロジェクトを生み出すきっかけとして、tsumikiに集まる多様な人たちの交流を図ります。どなたでもご参加いただけます。

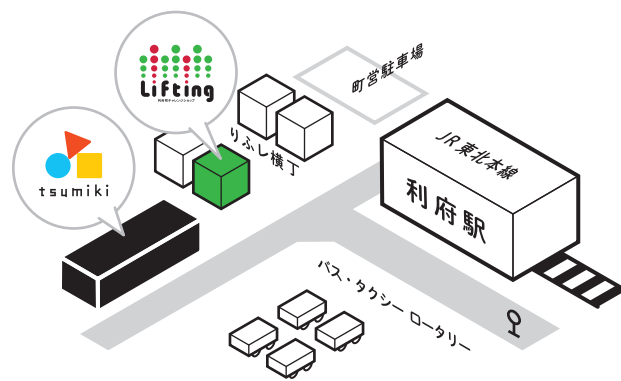
開催予定 7月28日(金)／9月29日(金)／11月24日(金)／2月23日(金)
各回19:00～21:00 ※予約不要です



利用時間
9:30-17:30
(水金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置者 利府町(政策課政策班)

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。政策課政策班は、地方創生の総括部門として「利府ならではの」シティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。

管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto

Granny Rideto(エスぺラント語)は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェブサイト

rifu-tsumiki.jp

Twitter

@rifu_tsumiki

Facebook

<tsumiki>で検索

Instagram

@rifu_tsumiki

つみきのキモチ vol.04 発行日●2017年6月30日 発行●利府町
企画●一般社団法人Granny Rideto 編集●桃生和成・葛西淳子(一般社団法人Granny Rideto) デザイン●homesickdesign

-旅館の情報

里山旬味 うちみ旅館

📍 宮城県宮城郡利府町菅谷字明神沢1
☎ 022-356-3145
🌐 http://sawaoto-onsen.com/

アクセス

- 仙台駅より車で約30分
- 仙台北部道路「しらし台1.C」より車で約3分
- JR東北本線「岩切駅」または「利府駅」よりタクシーで約10分

